

原則 1: 整合性（アライメント）



事業戦略を、持続可能な開発目標(SDGs)やパリ協定及び各国・地域の枠組で表明されているような個々人のニーズ及び社会の目標と整合させ、貢献できるようにする。

ビジネスモデル

銀行ビジネスについて、事業を展開している主要地域の主な顧客セグメント、提供する商品・サービス、融資先のセクターやプロジェクト、場合によっては技術などの概要を説明してください。例えば、地域、セグメント（バランスシート及び／またはオフバランスシート別）、またはサービスを提供する顧客数及び取引先数の観点から、銀行ポートフォリオの分布（%）を開示することによって情報を定量化してください。

SBI 新生銀行グループ（以下、当行グループ）は、法人業務及び個人業務を通じて、お客さまへの幅広い金融商品・サービスを提供している日本の金融機関です。

銀行の本支店は全て日本国内にあります。業種別貸出内訳は、94%が日本国内向けであり、そのうち事業法人向け貸出が 40%、個人向け貸出が 38%、金融法人向け貸出が 18%を占めています。

通期決算概要 P12：業種別貸出状況

<https://corp.sbishinsei.bank.co.jp/ja/ir/library/results/main/00/teaserItems1/08/linkList/0/link/4qfy22financialsummary230512j.pdf>

戦略アライメント

銀行の経営戦略において、サステナビリティは戦略的な優先事項として位置づけられ、反映されていますか？

はい

No

「持続可能な開発目標(SDGs)」や「パリ協定」さらに国内及び地域の枠組みに照らして、銀行の戦略がどのように社会の目標と合致しそれらに貢献しているか、または貢献する予定であるかについて説明してください。

戦略的優先事項またはこれらを実施するための方針において、以下の枠組みまたはサステナビリティに関する規制当局の報告要件についても言及していますか？

国連「ビジネスと人権に関する指導原則」（UN Guiding Principles on Business and Human Rights）

国際労働機関基本条約（International Labour Organization fundamental conventions）

国連グローバル・コンパクト

先住民族の権利に関する国連宣言（UN Declaration on the Rights of Indigenous Peoples）

環境リスクアセスメント（気候変動リスクなど）について、適用される規制当局の報告要件がある場合 - どのようなものを明記してください： _____

社会的リスク評価に関して適用される規制当局の報告義務（例：現代奴隷制度） - どのようなものがあるか具体的に記載してください： _____

□ 該当するものではありません

- ・ サステナビリティをグループの経営の根幹に据えることを「グループサステナビリティ経営ポリシー」において定めています。
- ・ 中期経営計画においても「事業を通じたサステナビリティの実現」を基本戦略の1つとしています。
- ・ 「国連グローバル・コンパクト」の原則を参考に、「グループサステナビリティ経営ポリシー」内の取組方針を定めています。
- ・ 「グループ人権ポリシー」を、「世界人権宣言」、「国際人権規約」、「ビジネスと人権に関する指導原則」、「労働における基本原則と権利に関するILO宣言」及び「子どもの権利とビジネス原則」の国際的な規範に準拠して策定しています。

グループサステナビリティ経営ポリシー

<https://corp.sbishinsei.bank.co.jp/ja/sustainability/policy/management.html>

中期経営計画

<https://corp.sbishinsei.bank.co.jp/ja/about/strategy.html>

グループ人権ポリシー

https://corp.sbishinsei.bank.co.jp/ja/sustainability/policy/human_rights.html

原則 2： インパクトと目標設定



人々や環境に対して、我々の事業及び提供する商品・サービスがもたらすリスクを管理しネガティブ・インパクト(悪影響)を低減する一方で、継続的にポジティブ・インパクト(好影響)を増加させる。そのために、重大なインパクトを与える可能性のある分野に関して目標を設定してそれを公表する。

2.1 インパクト分析 (キーステップ 1)

銀行が、最も重大なインパクトエリアを特定し、目標設定のための優先分野を決定するために、ポートフォリオのインパクト分析を行ったことを示してください。インパクト分析は定期的に更新され¹、以下の要件/要素 (a-d) を満たしている必要があります²。

a) 分析対象：インパクト分析の範囲はどのようなものか。(1.1で述べたように) 主要な事業分野、商品/サービスのうち、インパクト分析で考慮された範囲を明記する。また、対象外についても記載し、その理由についても言及する。

昨年分析対象とした「日本国内の法人向け貸出」に加え、本年は2番目に大きな割合を占める「日本国内の個人向け貸出」を分析対象として特定しました。

¹ インパクト分析が過去の期間に実施された場合は、適宜、情報を更新、分析対象を拡大し、インパクト分析の質を経時的に向上させる必要があります。

² ガイダンスは、[インパクト分析と目標設定に関するインタラクティブ・ガイダンス](#)に掲載されています。

b) ポートフォリオの構成：分析においてポートフォリオの構成を考慮したかどうか（単位：％）。グローバル及び地域ごとのポートフォリオの構成比を示す。

- i) ビジネス、コーポレート及びインベストメント・バンキングのポートフォリオについて、セクター及び産業別³（セクター・エクスポージャーまたは産業別の内訳（％））
- ii) 消費者金融及びリテール・バンキングのポートフォリオについて、商品・サービス別及び顧客のタイプ別の集計

エクスポージャーの規模を把握するために別のアプローチをとっている場合、産業またはセクターの観点から銀行の中核事業や主要事業がどこに位置しているかについてどのように考慮したかを記述する。

分析においてはポートフォリオの構成を考慮しました。当行グループの業種別貸出内訳は、94％が日本国内向けであり、そのうち事業法人向け貸出が40％、個人向け貸出が38％、金融法人向け貸出が18％を占めています。

業種別貸出状況（連結）

	(単位:10億円)		
	2023年 3月末	2022年 3月末	比較 (金額)
国内(除く特別国際金融取引勘定分):			
製造業	338.8	207.0	131.7
農業、林業	—	—	—
漁業	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	0.3	0.3	-0.0
建設業	20.1	13.8	6.3
電気・ガス・熱供給・水道業	497.8	397.2	100.5
情報通信業	53.9	48.6	5.3
運輸業、郵便業	215.2	170.5	44.6
卸売業、小売業	138.9	95.6	43.3
金融業、保険業	1,132.2	465.4	666.7
不動産業	820.2	702.1	118.0
各種サービス業	515.5	388.2	127.2
地方公共団体	259.4	52.3	207.1
その他	2,468.1	2,250.0	218.0
個人向け貸出(住宅ローン、 無担保ローン、クレジットカードキャッシング、 住関連ローン等)	1,818.7	1,795.4	23.2
国内合計(A)	6,460.8	4,791.6	1,669.2
海外及び特別国際金融取引勘定分:			
政府等	—	—	—
金融機関	15.5	22.8	-7.2
その他	412.3	427.3	-14.9
海外合計(B)	427.9	450.1	-22.2
合計(A)+(B)	6,888.8	5,241.8	1,646.9

通期決算概要 P12：業種別貸出状況

<https://corp.sbhinseibank.co.jp/ja/ir/library/results/main/00/teaserItems1/08/linkList/0/link/4qfy22financialsummary230512j.pdf>

³ 異なるインパクトエリアに関連する「主要セクター」、すなわち、ポジティブ及びネガティブインパクトが特に強いセクターは、ここで特に関連性が高くなります。

c) 背景: 銀行及び/または顧客が事業を行っている主な国/地域における持続可能な開発に関する主要な課題と優先事項は何か⁴。インパクト分析における当該要素に有用な情報として、どのようなステークホルダーを関与させたかを含め、それらがどのように考慮されたかを記述する。
このステップの目的は、銀行のポートフォリオのインパクトを、社会のニーズという文脈で考えることにある。

当行グループの業種別貸出内訳は、94%が日本国内向けであるため、主要な課題の特定にあたっては、環境省の「日本国内の事業におけるインパクトニーズマップ」を使用しました。これはSDGsインデックス&ダッシュボード、日本政府による「SDGs実施指針」、UNEP FIのインパクト評価ツールによる日本のカントリーニーズを関連づけて整理したものです。加えて、2022年に更新されたUNEP FIインパクトレーダーも参照しました。
それらに基づき、「気候」「サーキュラリティ」「資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質」を主要課題と特定しました。

環境省：(参考資料) インパクトファイナンスについて P22
<http://greenfinanceportal.env.go.jp/pdf/114285.pdf>
(環境省ホームページ)
UNEP FI Impact Radar
<https://www.unepfi.org/impact/impact-radar-mappings/>

インパクト分析の最初の3つの要素に基づきどのようなポジティブ及びネガティブなインパクトエリアを特定したか。目標設定戦略(2.2参照)5を追求するために、どの(少なくとも2つの)重大なインパクトエリアに優先順位をつけたかを開示。

1. 日本国内の法人向け貸出における、気候分野
2. 日本国内の法人向け貸出における、資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質分野
3. 日本国内の個人向け貸出における、気候分野

d) これら(最低2つの優先的インパクトエリア)に関する**パフォーマンス測定**：どのセクターや産業、また融資及び投資先の顧客のタイプが、実際のポジティブまたはネガティブのインパクトを最も強く引き起こしているかを特定したか。自行の状況に当てはまる重要なインパクトエリアに関連する適切な指標を用いて、これらのパフォーマンスをどのように評価したかについて説明する。
最も大きなインパクトを与える分野のうち、目標設定のための優先分野を決定する際には、銀行の現在のパフォーマンスレベル、すなわち、銀行の事業活動や商品・サービスの提供から生じる社会・経済・環境へのインパクトを、定性・定量指標や代理指標を用いて考慮する必要がある。気候変動及び/または金融の健全性と包摂を最も重要なインパクトエリアとして特定した場合、別紙の該当する指標も参照のこと。
銀行の事業活動や商品・サービスの提供から生じるインパクトの強さを評価するために、別のアプローチをとっている場合は、その内容を記述する。
このステップの結果は、最も大きなインパクトを与える2つの分野の目標設定に使用できるベースライン(指標を含む)にもなります。

TCFDフレームワークに沿って、気候変動リスクを分析し、ネガティブインパクトを特定しました。

統合報告書 2023 P40-41

⁴ 高度に分散された国際的なポートフォリオを持つ銀行ではグローバルな優先順位が代わりに考慮されるかもしれません。
⁵ 最も大きなインパクトを与える地域の優先順位を決めるには、a)、b)、c)で述べた定量分析に定性分析を重ねることが重要であり、例えば、ステークホルダーの関与やローカルな事情のさらなる整理が必要となります。

まず自社のポートフォリオを定量/定性分析し、リスクヒートマップを作成しました。そこでインパクトが大きいと考えた国内不動産ノンリコースローン、国内プロジェクトファイナンス、住宅ローン、新生フィナンシャルの個人向け無担保ローンの物理的リスクを、IPCC 第5次評価報告書 RCP2.6 (2℃シナリオ) /同 8.5 (4℃シナリオ) に基づき分析し、電力ユーティリティ、石油・ガス、海運セクターへの貸出の移行リスクを、NGFS Net Zero 2050 (1.5℃シナリオ)、Delayed Transition、Current Policies に基づき分析しました。

<https://corp.sbishinseibank.co.jp/ja/ir/library/integrated/main/06/teaserItems3/03/linkList/0/link/ir23jpn.pdf>

自己評価の要約

最も重大な（潜在的な）プラス及びマイナスのインパクトを持つ分野を特定するために、次のどのインパクト分析の要素を完了しましたか。⁶

分析対象	<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> 進行中	<input type="checkbox"/> いいえ
ポートフォリオの構成	<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> 進行中	<input type="checkbox"/> いいえ
背景	<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> 進行中	<input type="checkbox"/> いいえ
パフォーマンス測定	<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> 進行中	<input type="checkbox"/> いいえ

インパクト分析の結果、銀行にとって最も重要なインパクトエリアはどれですか。

気候変動緩和、気候変動適応、資源効率と循環型経済、資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質

インパクト分析に使用され開示されたデータは、どの程度新しいものですか。

- 6ヶ月前
- 12ヶ月前
- 18ヶ月前
- 18ヶ月以上経過

潜在的な課題、上記でカバーされていない点などを記述するための記述箇所（任意）：

⁶ 質問に対して「はい」と答えることができるのは、例えば、最初のインパクト分析が実施された、あるいはパイロットプロジェクトを実施したなど、上記に示されたステップの1つが完了している場合です。

2.2 目標設定（キーステップ 2）

インパクト分析で特定した最も大きなインパクトのある少なくとも2つの分野に対応する、最低2つの目標を設定し、公表していることを示してください。

目標は、具体的(Specific)、測定可能(Measurable)(定性的あるいは定量的)、達成可(Achievable)、関連性のある(Relevant)、そして期限付き(Time-bound)、すなわち SMART である必要があります。目標設定に関する以下の要素(a-d)を、各目標ごとに個別に開示してください。

a) 整合性：銀行ポートフォリオと整合させるために、どのような国際的、地域的または国家的な政策枠組⁷が関連性が高いと判断したか。選択した指標や目標が、適切な持続可能な開発目標、パリ協定の目標、その他の関連する国際的、国別、地域別の枠組みにリンクし、それらが整合性を高め、より大きな貢献をすることを示す。

2.1の背景をベースに構築することができる。

当行グループでは、TCFDフレームワークに基づき気候課題への取り組みを行っています。

b) ベースライン：選択した指標のベースラインを決定し、現在の整合性のレベルを評価したか。使用した指標と、ベースラインの年度を開示する。

2.1で実施したパフォーマンス測定をもとに、目標のベースラインを決定することができる。

気候変動の緩和や金融の健全性と包摂のための指標パッケージが開発され、銀行が目標を設定し、実施する際のガイドとサポートとなっている。指標の概要は、本テンプレートの[付属文書に記載](#)。

気候変動緩和や金融の健全性・包摂性を、最も重要なインパクトエリアとして優先している銀行は、インパクトエリア、全ての関連指標、対応する指標コードを含む以下のような概要表を用いて、付属書に示されているような指標について報告することが強く推奨される。

インパクトエリア	指標コード	回答
気候変動の緩和	...	
	...	
	...	

インパクト範囲	指標コード	回答
金融の健全性と包括性	...	
	...	
	...	

ベースラインを決定し、インパクト重視の目標に向けた整合性のレベルを評価するために、関連する他の、あるいは追加の指標を特定した場合、それらを開示してください。

インパクトエリア	指標コード	回答	リンク及び参照
気候変動の緩和	A.3.2	ベースライン：2021年度	
	A.4.2	ベースライン：2021年度	

<p>c) SMART 目標 (重要業績評価指標(KPI)を含む)⁸ : 最も大きなインパクトを与える第一の領域と第二の領域について、すでに実施されている場合は、その目標を開示する (さらにインパクトを与える領域がある場合は、その目標も)。目標達成に向けた進捗をモニターするために、どのような KPI を使用しているか開示する。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> サステナブルファイナンス組成金額 : 2030 年度末までに累計 5 兆円 (気候、資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質) 石炭火力発電向けプロジェクトファイナンス融資残高 : 2040 年度末までにゼロ (気候) 当行グループの投融資先ポートフォリオにおける温室効果ガス排出量 : 2050 年度末までにネットゼロ (気候) 	<p>サステナビリティ目標</p> <p>https://corp.sbshinseibank.co.jp/ja/sustainability/management/materiality_target.html</p>
<p>d) アクションプラン : 設定した目標を達成するために、マイルストーンを含め、どのようなアクションを定義したかを記述する。</p> <p>また銀行が設定した目標がインパクトエリア内または他のインパクトエリアに及ぼす重大な (潜在的な) 間接的インパクトを分析・認識し、潜在的な負のインパクトを回避、緩和、または補償するための適切な措置を定めていることも示す。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 関係部署の KPI として設定し、報酬に反映 タスクフォースを設置 サステナブルファイナンスの組成にあたっては、国内外の関連原則と整合したフレームワークを策定しており、専門部署が対象となるファイナンスについて間接的インパクトも含め分析・評価 	

自己評価の要約			
PRB の要件に沿った目標設定について以下のどの要素を完了しましたか、あるいは現在進行中ですか。			
	... 最も大きなインパクトを与える第一の領域 : ... (気候)。	... 最も大きなインパクトを与える第二の領域 : ... (資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質)	(より多くのインパクトエリアで目標を設定している場合) ... 第三 (及びそれ以降) のインパクトエリア : ... (名称を記載)
整合性	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> いいえ	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> いいえ

⁷ 銀行は、目標設定のために、主要な事業を展開する国/地域における持続可能な開発の観点からの主な課題と優先事項を検討する必要があります。これらは、国家開発計画や戦略、SDGs やパリ気候協定のような国際目標、地域のフレームワークなどが該当します。整合させるとは、銀行の目標とこれらの枠組みや優先事項との間に明確な関連性があり、その目標が国内及びグローバル目標に貢献することにどのように支援し、推進しているかを示すことです。

⁸ 重要業績評価指標は、目標に対する進捗状況をモニターする目的で、銀行が選択した指標です。

ベースライン	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> いいえ	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> いいえ
SMART 目標	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> いいえ	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> いいえ
アクションプラン	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> いいえ	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> いいえ

2.3 目標の実行とモニタリング（キーステップ 2）

各目標ごとに

設定した目標を達成するために、事前に定義したアクションを実行したことを示す。

2.2 で設定した進捗状況を把握するための指標や KPI を用いて、設定した各目標の達成に向けた前回のレポート以降の進捗状況と、進捗の結果もたらされたインパクトについて報告する。

または、計画を変更する場合（第二回目以降の報告にのみ該当）：潜在的な変更（優先インパクトエリアの変更、指標の変更、目標の加速／見直し、新しいマイルストーンの導入、行動計画の修正）を説明し、なぜその変更が必要になったかを説明すること。

- ・ サステナブルファイナンス組成金額：4,513 億円
- ・ 石炭火力発電向けプロジェクトファイナンス融資残高：500 億円から 410 億円に減少

原則 3 : 顧客（法人及びリテール）



顧客と協力して、サステナブルな慣行を奨励し、現在と将来の世代に共通の繁栄をもたらす経済活動を可能にする。

3.1 顧客エンゲージメント

持続可能な活動を奨励するための方針または顧客とのエンゲージメントプロセスを実施しているか。⁹

はい 進行中 いいえ

（潜在的な影響も含め）最も大きなネガティブインパクトを特定したセクターに対する方針を持っているか。

はい 進行中 いいえ

持続可能な慣行を奨励し、持続可能な経済活動を可能にするために、法人及びリテール顧客とどのように協力したか、及び／または協力する予定であるかを記述する¹⁰。これには、関連する方針、顧客のトランジションを支援するために計画あるいは実際の行動、顧客エンゲージメントにおいて選択した指標、及び可能な場合には達成されたインパクトに関する情報が含まれていなければならない。

これは、銀行が実施するインパクト分析、目標設定、行動計画（P2 参照）にもとづき、それに沿ったものである必要がある。

当行グループは、「責任ある投融資に向けた取組方針」を定め、新設の石炭火力発電の建設を使途とする新規の投融資を禁止しています。これはインパクト分析において「日本国内の法人向け投融資ビジネスにおける、気候変動関連分野」を特定したことと整合しています。

新規の投融資を行う際には、当該ポリシーおよび赤道原則に基づき、環境や社会への負の影響を法人顧客と協力して確認しています。また、自社でサステナブルインパクトの評価を行う体制を確立しており、SBI 新生銀行サステナブルインパクト推進部が各ビジネス関連部署と連携しながら、サステナブルファイナンスを組成・実行し、気候変動解決に貢献するお客さまのビジネス支援を行っています。サステナブルファイナンスの組成・実行にあたっては、グリーンローン原則やサステナビリティ・リンク・ローン原則など、国内外の関連原則と整合した「新生グリーンファイナンス・フレームワーク」や「新生サステナビリティ・リンク・ローン・フレームワーク」を策定しており、サステナブルインパクト推進部の内室であるサステナブルインパクト評価室が、対象となるファイナンスについてフレームワークへの適合性などを評価しています。そのような体制のもと、2030 年度末までに累計 5 兆円組成するという目標を掲げ、サステナブルファイナンスを推進しています。

責任ある投融資に向けた取組方針

<https://corp.sbishinsei.bank.co.jp/ja/sustainability/policy/investment.html>

3.2 ビジネス機会

ポジティブインパクトの増加及びネガティブインパクトの減少に関連してどのような戦略的事業機会を見出したか、及び／または、報告期間中にどのようにそれらに取り組んだかについて説明する。既存の商品やサービスに関する情報、すなわち金額（米ドルまたは現地通貨）及び／またはポートフォリオに占める割合で、開発した持続可能な商品に関する情報を、どのSDGsまたはインパクトエリアにポジティブインパクトを与えるよう努力しているか（例：グリーンモーゲージ-気候、ソーシャルボンド-金融包摂など）についての情報を提供すること。

銀行グループである当行グループにとっては、サステナブルファイナンスがポジティブインパクトの増加及びネガティブインパクトの減少に最も影響すると考えています。2030年度末までに累計5兆円組成するという目標を掲げ、2022年度には4,513億円を組成しました。

グリーンローンは主に気候、ソーシャルローンは主に資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質のインパクトエリアにポジティブなインパクトを与えるよう努力しています。

また、環境・社会課題の解決においては個人顧客との協力も機会になりうる考え、銀行のリテール顧客向けにサステナビリティ関連投融資に資金用途を限定した「サステナビリティ預金」を販売しました。

統合報告書 2023 P34, 35, 37

<https://corp.sbishinsei.bank.co.jp/ja/ir/library/integrated/main/06/easerItems3/03/linkList/0/link/ir23jpn.pdf>

原則 4: ステークホルダー



社会の目標達成のために、関連のあるステークホルダーと積極的かつ責任をもって協議、関与し、連携します。

4.1 ステークホルダーの特定と協議

インパクト分析及び目標設定プロセスにおいて、関連のあるステークホルダー（またはステークホルダー・グループ¹¹）を特定し、定期的に協議、関与、協力、連携するプロセスを持っているか。

はい 進行中 いいえ

原則を実施し、銀行が及ぼすインパクトを改善する目的で、銀行がどのステークホルダー（あるいはグループ/タイプ）を特定し、協議し、関与し、協力し、または提携したかについて記述する。銀行がど

⁹ 顧客エンゲージメントプロセスとは、様々な顧客リレーションシップチャネルを通じて戦略的に伴走し、サステナビリティ目標に沿ったビジネスモデルへの移行を支援するプロセスです。

¹⁰ 持続可能な経済活動は、低炭素で資源効率の高い持続可能な経済への移行を促進します。

¹¹ 規制当局、投資家、政府、サプライヤー、顧客、学界、市民社会組織、コミュニティ、先住民の代表、NPO など。

のようにステークホルダーを特定し、どのような問題に取り組み、どのような成果を得たか、そしてそれらがどのように行動計画プロセスに反映されたかについての概略を含める必要がある。

当行グループは、「グループサステナビリティ経営ポリシー」においてステークホルダーエンゲージメントの基本的な考え方を掲げています。

お客さま、パートナー（調達先、購買先、業務委託先及び協業先などの企業活動上の関係者）、従業員、地域社会、行政、株主・投資家、その他の営利・非営利組織をはじめとするステークホルダーとの価値共創が不可欠です。ステークホルダーとの建設的な対話（エンゲージメント）を通じて、当行グループのサステナビリティ経営を絶えず見直し、ステークホルダーに対して付加価値のある取り組みを推進していきます。

グループサステナビリティ経営ポリシー

<https://corp.sbishinsei.bank.co.jp/ja/sustainability/policy/management.html>

原則 5 : ガバナンスと企業文化



効果的なガバナンスと責任ある銀行業の文化を通じて、これらの原則へのコミットメントを実行します。

5.1 原則を実施するためのガバナンス体制

PRB を組み込んだガバナンスシステムを構築しているか。

はい 進行中 いいえ

著しいポジティブ及びネガティブインパクト（潜在的な影響も含め）を管理し、原則の効果的な実施を支援するために、既に整備されている／整備予定のガバナンス構造、方針及び手続きについて説明する。これには以下に関する情報が含まれる。

- サステナビリティ戦略、目標の承認及びモニタリングに責任を持つ委員会（PRB に関する最高レベルのガバナンスについての情報を含む）。
- 委員会の委員長、取締役会が PRB 実施状況を監督するためのプロセス及び頻度（目標またはマイルストーンが達成されない場合、あるいは予期せぬネガティブインパクトが検出された場合の是正措置を含む）に関する詳細、ならびに
- サステナビリティの目標と連動した報酬の慣行

サステナビリティの監督・推進体制として、チーフ サステナビリティ オフィサー（CSO）およびサステナビリティ オフィサー（SO）を任命するとともに、グループ重要委員会の一つとしてグループサステナビリティ委員会を設置し、ほぼ毎月開催しています。また、取締役会およびグループ経営会議に対してはサステナビリティ経営に係る定期報告を 3 か月に 1 回程度行うとともに、重要事項の付議を行っています。

統合報告書 2023 P31
<https://corp.sbishinsei.bank.co.jp/ja/ir/library/integrated/main/06/t-easerItems3/03/linkList/0/link/ir23jpn.pdf>

5.2 責任ある銀行業の文化を促進

従業員に責任ある銀行業の文化を醸成するための取り組みや施策（能力開発、e ラーニング、顧客対応業務のためのサステナビリティ研修、報酬体系への組み込み、業績管理、リーダーシップコミュニケーションなど）を記述する。

- サステナビリティの有識者による講演、ウェビナー
- グループ内の取り組みや SDGs 解説を含むサステナビリティ通信の定期発行
- ゲーム形式の体験型研修
- 社内啓発の促進やサステナビリティ推進の気運を盛り上げるための社員参加型イベント
- SBI 新生銀行グループサステナビリティサイト：社外向けの情報発信

統合報告書 2023 P36
<https://corp.sbishinsei.bank.co.jp/ja/ir/library/integrated/main/06/t-easerItems3/03/linkList/0/link/ir23jpn.pdf>

5.3 方針とデューデリジェンス・プロセス

ポートフォリオ内の環境・社会リスクに対処するための方針を定めているか¹²記述する。

ポートフォリオに関連する環境・社会リスクを特定し管理するために、銀行においてどのようなデューデリジェンスプロセスを導入しているか説明する。これには、重要/顕著なリスクの特定、環境・社会リスクの軽減と行動計画の定義、リスクに関する監視と報告、既存の苦情処理メカニズム、さらにこれらのリスクを監督するためのガバナンス構造などの側面が含まれる。

「責任ある投融資に向けた取組方針」を制定し、投融資を禁止または留意するセクターを特定しています。取引に先立ち、公開情報やお客さまからご提供いただく情報等に基づき、禁止または留意事業への該当有無やお客さまの環境および社会に配慮した取り組みの実施状況を確認する体制を構築しています。

責任ある投融資に向けた取組方針

<https://corp.sbishinsei.bank.co.jp/ja/sustainability/policy/investment.html>

自己評価の要約

CEO や他の経営幹部は、銀行のガバナンスシステムを通じて、原則の実施について定期的に監督していますか？

はい いいえ

ガバナンスシステムには、PRB の実施を監督する仕組み（インパクト分析や目標設定、目標達成のための活動、目標やマイルストーンが達成されない場合や予期せぬネガティブインパクトが検出された場合の是正措置のプロセスなど）が含まれていますか？

はい いいえ

従業員のサステナビリティ文化を促進するための施策を実施していますか（5.2 項で記述）？

はい 進行中 いいえ

¹² 適切な方針の例としては、特定のセクター/活動に対する排除方針、森林破壊ゼロ方針、ゼロトレランス方針、ジェンダー関連方針、ソーシャルデューデリジェンス方針、ステークホルダーエンゲージメント方針、内部告発方針など、または社会リスクに関連する適用可能な国内ガイドラインが挙げられます。

原則 6 : 透明性と説明責任



これらの原則の個別及び全体的な実施状況を定期的に見直し、ポジティブ及びネガティブなインパクトと社会の目標への貢献について、透明性を保ち、説明責任を果たす。

6.1 保証

PRB コミットメントに関するこの公開情報は、独立した機関によって保証されているか。

はい 部分的に いいえ

該当する場合は、保証に関するステートメントのリンクまたは説明を含めること。

6.2 他の報告枠組みに関して

以下の基準や枠組みでサステナビリティ情報を開示しているか。

- GRI
- SASB
- CDP
- IFRS サステナビリティ開示基準（公表予定）
- TCFD
- その他：

CDP アンケートに毎年回答しています。
統合報告書において、TCFD フレームワークに沿った開示を行っています。

外部評価

<https://corp.sbishinseibank.co.jp/ja/sustainability/initiative/evaluation.html>

統合報告書 2023 P38-44, 75

<https://corp.sbishinseibank.co.jp/ja/ir/library/integrated/main/06/teaserItems3/03/linkList/0/link/ir23jpn.pdf>

6.3 展望

今後 12 ヶ月間の報告期間中に、実施する次のステップは何か（特にインパクト分析¹³、目標設定¹⁴、PRB 実施のためのガバナンス構造など）について簡潔に記載する。

¹³ 例えば、まだカバーしていない分野を含めることで対象範囲を拡大する計画や、ポートフォリオの構成、背景、パフォーマンス測定の観点から予定されるステップの概要を説明します。

¹⁴ 例えば、ベースライン測定の計画概要、（より）インパクトのある分野の目標設定、中間目標の設定、行動計画の策定などが該当します。

未定	
----	--

6.4 課題

ここでは、責任銀行原則の実施に関して、銀行が直面している可能性のある課題について、簡単に紹介します。PRB 署名銀行の全体的な進捗状況を把握する上で皆様からのフィードバックは有用です。

責任銀行原則を実行する際に、優先的に取り組むべき課題は何ですか？貴行が過去 12 ヶ月間に優先的に取り組んだ課題の上位 3 つを選んでください（任意質問）。

必要であれば、課題とその取り組みについて詳しく説明することもできます。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> PRB 監督をガバナンスに組み入れる | <input type="checkbox"/> 顧客エンゲージメント |
| <input checked="" type="checkbox"/> 銀行内でのモメンタム獲得または維持 | <input type="checkbox"/> ステークホルダー・エンゲージメント |
| <input type="checkbox"/> 何から始め、何に重点を置くか | <input checked="" type="checkbox"/> データの有無 |
| <input type="checkbox"/> インパクト分析の実施 | <input type="checkbox"/> データの質 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 環境及び社会的なネガティブインパクトの評価 | <input type="checkbox"/> リソースへのアクセス |
| <input type="checkbox"/> 適切なパフォーマンス測定手法の選択 | <input type="checkbox"/> 報告 |
| <input type="checkbox"/> 目標の設定 | <input type="checkbox"/> 保証 |
| <input type="checkbox"/> その他： ... | <input type="checkbox"/> 行内での行動の優先順位付け |

必要であれば、課題とその取り組みについて詳しく説明することもできます。

